



『教育目標』と『目指す生徒像』『目指す学校像』『目指す教師像』

『令和 6 年度までの学校教育目標』（令和 7 年度から新目標）  
すすんで学び、丈夫なからだで、みんな仲よく  
『目指す生徒像』

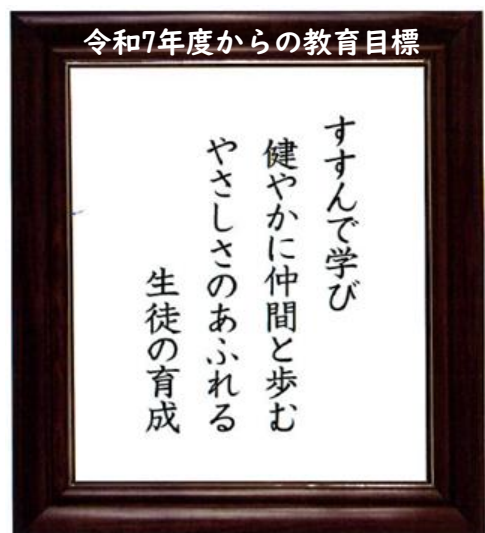
- ① 自他を大切にし、心豊かでたくましく生き抜く生徒【持続可能な社会づくりに向け、自らを高め、多様性を尊重する態度や互いのよさを生かして協働する力（ダイバーシティ・インクルージョン）】（㊸ ㊹）  
② 自主自立の精神を強くもつ生徒【自己実現】（㊸）【実践力】（㊹）  
③ 礼儀（あいさつとことば）正しく思いやりのある生徒【リーダーシップやチームワーク、感性、優しさなどの人間性】（㊸）

『目指す学校像』

- ① 生徒も教職員も「生命の尊さ」を深く理解し、安全で安心して生活できる学校  
② 生徒も教職員も「学ぶ喜び」を享受できる学校  
③ 生徒も教職員も将来の夢や目標の実現に向けて生き生きと活動できる学校  
④ 伝統と創造を重んじ、生徒・保護者・地域・教職員が共に支え合う学校

『目指す教師像』

- ① 人権尊重を第一に生徒一人一人の良さを発見する眼、受けとめる心、語り合える言葉を大切にする教師  
② 専門性、指導力を磨き合い、組織としての対応力を高め合う教師集団



はぐくむべき資質・能力 キーワード『発見すること』『対話すること』『決定すること』『表現すること』

社会生活における課題や問題を自ら発見し（㊸）、他者と協働（対話と表現）して解決しようとする態度（㊹）や新たな考えを創造し決めたことを実行しようとする力（㊹）（アルファベットは目指す生徒像との関係を表す）

教育ビジョンと市教育委員会のキーワード「きづく」「つながる」「たかめる」との関連

《各教科等教育指導ビジョン》…〔下段〕参照  
《「きづく」「つながる」「たかめる」》

◇「きづく」  
【コンピテンシー】  
生徒も教職員も自らのコンピテンシーにきづく。  
【働く見方・考え方】  
知識と技能の習得により鍛えられた「見方・考え方」がさまざまな活動で確かに働くことにきづく。  
（例 防災（危機）の場面、学校行事の場面）

◇「つながる」  
【シナジー発揮】  
協働力を高めるために、府中版コミュニティ・スクールの機能を発揮させ、保護者を含めた地域と学校とが双方向でつながる。（例 カリキュラム・マネジメント、地域行事）  
【連携から連携へ】  
「新・府中八中学校スタンダード」をダイナミックに運用するために、小・中が「連携を基本」にしたつながりを構築する。

◇「たかめる」  
【レジリエンス獲得】  
自らの個性や能力を伸ばし、様々な困難を力強く乗り越え、人生を切り拓いていくことができるレジリエンスをたかめる。  
【ダイバーシティ・インクルージョン実現】  
他者への共感や思いやりをもち、多様な人々が共に生きる社会の実現に寄与できる資質や力をたかめる。  
【豊かな感性、創造力と表現力の向上】  
読書等読み物を読む活動を重点的に推進し、思考を豊かにすることで感性、創造力、表現力をたかめる。

本年度の教育活動実践課題解決状況

- （学習面）・全国調査において「課題解決に向けて自分て考え主体的に取り組んでいる」生徒の割合は全国、都、市を上回った。  
・学習や生活に目標をもって取り組んでいる生徒の割合の変化…………… 8 8 %（前期）→ 9 3 %（後期）【5 ポイント増加】  
・防災に関する学習に意欲的に取り組んでいる生徒の割合の変化…………… 7 9 %（前期）→ 8 7 %（後期）【8 ポイント増加】  
・道徳の授業にしっかりと取り組んでいる生徒の割合の変化…………… 9 5 %（前期）→ 9 8 %（後期）【3 ポイント増加】  
（生活面）・学級の活動、学校行事に進んで取り組んでいる生徒の割合の変化…………… 9 4 %（前期）→ 9 7 %（後期）【3 ポイント増加】  
・交通ルール、社会のルール、学校生活の決まりを守っている生徒の割合の変化…………… 9 5 %（前期）→ 9 8 %（後期）【3 ポイント増加】  
・友達などに思いやりの気持ちをもって接している生徒の割合…の変化…………… 9 6 %（前期）→ 9 8 %（後期）【2 ポイント増加】

課題・・・デジタル技術をフル活用した判断力、表現力を支える「見方・考え方」が働くより質の高い授業（教育活動）の実現

課題解決に向けた重点・・・「個別最適な指導・支援の推進」「デジタル技術の適正な活用能力の向上」

| 領域          | 中期経営目標                                                                                                             | 短期経営目標                                                                                                                                                | ●学校の自己評価結果の概要 ■スクール・コミュニティ協議会等の評価の概要                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        | 次年度の努力事項                                                                                                                                 |
|-------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 健全育成        | ・生命尊重の精神の育成を基盤とした生徒の <b>自己実現力</b> （自己指導能力）を高める生徒指導の実践<br>・高い人権感覚、豊かな心を培う教育活動の実践                                    | ・一人一人の生徒の行動特性やコンピテンシーなどあらゆる多くの情報を基礎にした教育活動、生徒指導の実現<br>・学校を主体とし、家庭や地域社会及び関係機関等との連携・協力を密にした戦略的教育活動、生徒指導の実現                                              | ●教科の学習等で育まれた4つの資質・能力『発見』『対話』『決定』『表現』が教科の学習の場以外でも十分に発揮されている。<br>●関係者による多角的コンセンサスを重視した協働的生徒指導により学校を起因とする解決困難な問題の発生件数0件を維持している。<br>■大変多くの生徒たちが自主的に青少対の行事（清掃、風作り、どんどこ焼きなど）にボランティアとして参加して自己効力感を高めている。                                                                                                                                                                                                                                            | ①4つの資質・能力『発見』『対話』『決定』『表現』が発揮できる教育活動の推進<br>②保護者、地域、関係機関と協働した、生徒の感性や人権感覚向上をねらった取組の実施<br>③アセスメント力向上と協働的生徒指導力と組織対応力の強化                       |
| 特別支援        | ・個別最適化と共生社会を目指すダイバーシティ・インクルージョンの実現<br>・障害に対する教職員の専門性を高め、生徒の可能性を最大限に伸ばす教育活動の実践                                      | ・一人一人の生徒の教育的ニーズを把握し、多様な学びの場と指導、支援（ユニバーサルデザイン等）の充実を行う。<br>・障害の有無に関わらない交流、共同学習の場の設定と教育活動を推進する。                                                          | ●ダイバーシティ・インクルージョンをコンセプトに学校教育目標を改訂した。（令和7年度から施行）<br>●校内研究主題を「特別な支援が必要な生徒に対する的確なアセスメント」として研究を推進し教職員のアセスメント力を向上させたことにより、一人一人の生徒に応じた個別最適な支援、指導を実現させた。<br>●いじめをはじめとする生徒が抱えるさまざまな深刻な悩みに対する対応のキーワードを「安心」と捉え、あらゆる場面で生徒に安心感をもたせる取組を行うことができた。<br>■不登校生徒も特別な支援が必要であると考え、「学校（スクール）」に通えない生徒の支援として、寄り添いを基本に考え「こども食堂」等地域的教育力を活用した取組は大きな成果をあげており高く評価する。                                                                                                     | ①ダイバーシティ・インクルージョン実現のための学校におけるインクルーシブ教育の推進<br>②教員の特別支援学校教員免許状取得意欲向上と支援<br>③個別最適化な指導、支援の推進<br>④合理的配慮の推進<br>⑤地域的教育力の最大限の活用                  |
| 健康・安全・体力づくり | ・基本的生活習慣を改善・定着させ、運動・スポーツに親しむ元気な生徒を育成する取組の実践<br>・主体的な安全文化の啓発と地域の安全文化の構築に貢献できる生徒を育てる安全教育の実践                          | ・面談等を活用した個に応じた健康教育を推進する。<br>・部活動の取組を通したスポーツや芸術、文化に親しむ取組を推進する。<br>・生徒会（生活委員会、保健委員会等）、部活動リーダーを中心に健康・安全への意識向上を実現する取組を推進する。<br>・地域等と連携した安全、防災に対する取組を推進する。 | ●府中市民体育大会では中学校対抗部門で総合優勝するなどスポーツに対する意欲を高まっているが健康、安全に多する意識を高める取組の継続が必要である。<br>●文化的行事や文化部活動、青少対の活動などを通して生徒の感性が大変高まっている。<br>■生涯にわたって健康で安全に生活しようとする気持ちを育てることが重要である。<br>●例年実施している地域と連携した防災教育の取組では「実効的」をキーワードに（安全教育、安全管理、組織活動）を推進し新たな課題（校区小学校との連携・連携）を発見した。<br>●養護教諭が行う保健指導、委員会活動の指導では、生徒が教科等横断的な学習を十分に発揮した取組を行った。<br>■地域と連携した防災の取組は、将来地域の安全を担う生徒にとって重要な取組である。四谷小学校と連携した取り組みに発展させたい。<br>■養護教諭が行った保健指導等は生徒が問題を発見し対話ととして解決策を決定し行動を起こしていることを大変高く評価する。 | ①健康教育の充実に向けた健康教育からのアプローチの継続<br>②青少対、PTA、校区小学校等と協働した取組の継続実施                                                                               |
| 保護の者連携地域    | ・地域、関係機関等の人的、物的資源等外部資源を積極的に活用した学校主体の教育活動、研究活動、マネジメントの実践<br>・ふるさと府中を愛する心を醸成し持ち続ける取組の実践                              | ・スクール・コミュニティ事業を推進し、重点的にはぐくむ資質・能力の実現に向けた取組を行う。<br>・地域の人材・環境・施設等の有効活用を推進する。                                                                             | ●地域コーディネーター等地域的教育力を十分に活用した取組を意図的、計画的に行った。<br>●大変多くの生徒が自主的に参加した「ふるさと府中を愛する心をはぐくむ取組（防災活動、伝統行事等）」では青少対、地域コーディネーターを中心に地域的教育力を最大限活用した。<br>●学校だより（年間24回発行）を活用した学校と保護者、地域等との双方向のインタラクティブなコミュニケーションを実現した。<br>■ハ中の地域、ふるさと府中を愛し、ふるさと府中を支える人材を育成するための取組を考えていきたい。                                                                                                                                                                                       | ①地域コーディネーターの学習支援面での活用の継続<br>②『発見すること』『対話すること』『決定すること』『表現すること』をキーワードにした取組を実施                                                              |
| 教育特色活動      | ・オリンピック・パラリンピック教育の成果の活用と共生・共助社会と持続可能な社会の実現に向けた「未来へつなぐ府中2020レガシー」の取組の実践<br>・多様な表現活動をととして、芸術文化のよさを発信できる生徒を育てる芸術教育の実践 | ・ふるさと府中で活躍する人材、ボランティアマインド、和太鼓、豊かな国際感覚を重点的に育成する取組を推進する。<br>・合唱指導の充実を図り、生徒の感性を高める取組を推進する。                                                               | ●避難所開設訓練や四谷苑と連携した取組等共生・共助社会を考える機会を意図的に設定した。<br>●日本人としての誇りについて規範意識をテーマに深く考える機会を意図的に設定した。<br>■引き続き、生徒や保護者が共生・共助社会を考える取組を推進することが大切である。<br>●合唱コンクール、周年行事、音楽発表会を通して生徒の感性を高める活動を行った。<br>■特に周年行事の第3学年生徒の合唱は参加者から高い評価を受けた。文化、芸術的な活動から大変高い生徒の感性を感じている。                                                                                                                                                                                               | ①日本人としての誇りをもたせる活動の推進<br>②「東京2025デフリンピック」を契機にした手話に関する取組の実施<br>③「キャリア・パスポート」の活用とふるさと府中で活躍する人材育成<br>④芸術活動と体育的活動をバランスよく行うことによる生徒の感性を高める活動の継続 |
| 働き方改革における   | ・教職員の心身の健康の増進<br>・教職員としての誇りやりがいをもって職務に専念できる環境の整備<br>・学校のエデュケーションの質の向上                                              | ・副校長等校務改善支援事業の活用及び効果的実践<br>・学校経営支援事業による専任スタッフの活用及び効果的実践<br>・地域コーディネーターの活用と効果的実践                                                                       | ●副校長等校務改善支援員による副校長業務支援を適切に実施した。<br>●学校日誌以外の電子化による業務効率化の検討を行った。<br>■教職員としての誇りやりがい、教職員の仕事の魅力を発信できるようにさせたい。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    | ①教職員の自己管理能力の向上<br>②デジタル機器の効果的活用による業務改善の推進                                                                                                |
| 服務規律        | ・服務規律の徹底<br>・服務の厳正                                                                                                 | ・非遵行為による服務事故0の継続<br>・教育公務員としての不適切な言動0の継続                                                                                                              | ●服務事故防止に向けた校長だよりを毎月3回発行し研修に活用した。<br>●特設する服務事故防止研修を各学期当初に5日連続で集中的に実施した。<br>●特設研修と関連させた定期的、日常的な服務事故防止研修を、企画調整会議、職員朝会、職員連絡会時に実施した。<br>■引き続き、服務の厳正への高い意識をもち続けられる取組の継続が大切である。                                                                                                                                                                                                                                                                    | ①自校、他校のヒヤリハット事案の共有と危機管理意識向上<br>②教職員同士の日常的な声掛けの実施<br>③非遵行為による服務事故0の継続                                                                     |

※キーワードとした文言に下線を引きました。